

雲仙温泉歴史探訪コース：雲仙におけるキリスト教徒

雲仙は神道と仏教の精神的伝統に深くつながっているだけでなく、日本のキリスト教の歴史とも密接に結びついている。ここで、数千人の地域住民、農民、侍、そして領主までもが、16 世紀の終わりから 17 世紀の初めまでにキリスト教に改宗した。

キリスト教は、殆ど知らない土地に新しい市場を求めてやってきたポルトガル人貿易業者とともに 1549 年に日本にやってきた。その後数十年間、イベリア半島の宗教と文化は九州およびその他の地域へすばやく広まった。1590 年代まで、長崎は、「キリシタン」（日本語でこの外国の宗教への改修者を指す）の拠点であり、いくつかの教会とキリスト教の本を製作する印刷所がひとつできた。

雲仙では、キリスト教徒の領主有馬晴信（1567 年 - 1612 年）は、何世紀も続いた宗教的伝統を拒否するために、神道の神社と仏教の寺院を破壊するよう命令した。新しく改宗したキリスト教徒によって多くの仏像の頭が切り落とされ、これらの頭のない遺物を今でも半島の至る所で見ることができる。

しかし、1587 年に、日本の偉大な統一者である豊臣秀吉（1537 年 - 1598 年）は、ポルトガル人は日本人をキリスト教に改宗した後で日本を植民地化しようとしていると疑い、最初の宣教師追放令を出した。1597 年に、長崎で 26 人のキリスト教徒が磔刑にされた。彼らは、それ以降続いた、島原の乱（1637 年～ 1638 年）で頂点となる宗教的大変動のなかで殺害された数千人のうちの最初の人々だった。